

ポラス 地盤改良工事を外販

低コスト独自工法 地域データ蓄積 施工能力を増強

ポラスグループで地盤改良工事を手掛けるジバテックは、外部受注を本格化する。地域密着型で戸建住宅を直営一貫施工で供給するグループの持つ累計4万棟の実績とノウハウを生かして、グループの供給エリアを中心に営業を始めた。

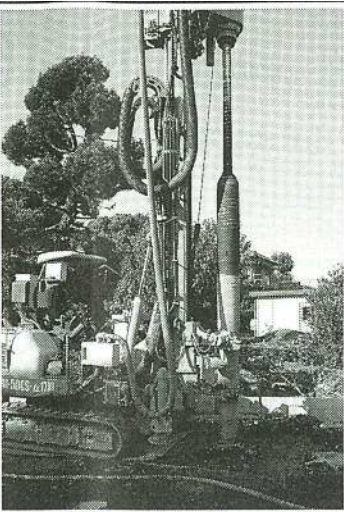
2009年にグループ

の住宅品質保証が地盤調査業務を開始。その後、地盤改良設計、施工も始め、13年には専用ロッドで掘削しセメントミルクで補強体を築造するオリジナルのSF-Raft工法を開発し、グループの分譲住宅などで実績を積んだ。地盤とセメント

良に比べると、工期が短く、腐植土による影響がないためさまざまな地質に適用できる。補強体だけでなく基礎による地盤支持力を活用できるため、補強体の本数、長さを低減でき、コストダウンも可能になる。発生残土が少ないことも特徴だ。

14年10月に施工関連を分社化して、ジバテックが発足。16年には、新たに補強体の下部を先端に向けて徐々に細くしたSF-Pile工法。写真は施工現場。周面摩擦力も活用してより合理的な設計を可能にした。

施工は社員による直営



体制。専門の職人を自社で養成して、施工品質を高めた。グループの供給する住宅は全棟地盤調査しているため、そのデータを活用して地域にあっ

た施工ができる。

これまでのグループ内の施工ではほぼ手一杯の状況だったが、当初2台だ

ったオリジナルの掘削機を徐々に増やし、5台体制にして外部からの受注を本格始動する。

同社では「埼玉県東部や千葉県西部、東京城東・城北エリアでは、豊富な地盤データを保有し、地質などの条件を熟知している。こうしたエリアを中心に、外部から受注していく」としている。